

リュブリャーナ大学文学部アジア・アフリカ研究学科日本研究講座
98/99年度 機関報告

リュブリャーナ大学
守時 なぎさ

1. 機関概要

リュブリャーナ大学文学部アジア・アフリカ研究学科日本研究講座は、1982年に始まったスロベニア東方学会主催日本語講座が母体となり、1995年10月に創立された。本年度初めて4年生までの学生が揃い、新しいプロジェクトも行われるなど、活気のある一年であった。

2. 教員

教授 Dr. Andrej Bekeš
講師 小林玲子、武田詩子、守時なぎさ

現在の教員は、スロベニア人1名と日本人3名である。このほか、98/99年度は日本文学専門のロシア人講師、近現代社会思想史専門の日本人講師の2名を招聘、また筑波大学との交流協定に基づき俳句論を専門とする講師が来訪、講義を行った。また国際交流基金の援助により中世思想史専門の日本人講師による1ヶ月にわたる講義や東欧巡回講義（異文化間教育、女性論）も行われた。

3. コースと学習者数

正規コース	1年生	122名登録（予想進級学生数約35名）
	2年生	31名登録（同約20名）
	3年生	26名登録（同約20名）
	4年生	9名登録
夜間一般公開講座	初級	15人弱

4. 授業時間

正規課程	1年生	現代日本語Ⅰ 講義	45分x1コマx2回/週
		演習	45分x(4コマ+1コマ(LL))/週
		表記	45分x2コマ/週
	2年生	研究方法論Ⅰ 講義	45分x1コマ/週
		演習	45分x1コマ/週
		現代日本語Ⅱ 講義	45分x1コマx2回/週
3年生	演習	45分x(4コマ+2コマ(LL))/週	
	研究方法論Ⅱ 講義	45分x1コマ/週	
	演習	45分x1コマ/週	
3年生	現代日本語Ⅲ、翻訳論Ⅰ、日本文学論		
4年生	翻訳論Ⅱ、日本史概論、日本文学論、アジア宗教史		
	3、4年生は日本語構造論、古典、書道、日本文化論、コンピュータ言語学から二つ選択。		

夜間一般公開講座 初級 45分x2コマx2回/週

集中講座 3月15日～26日（1年生、2年生対象）
7月6日～16日（一般人対象入門コース）

5. 98/99年度の活動

98/99年度は、計6名の客員教授による講義がおこなわれた。授業は上記の通り多岐の領域にまたがっておこなわれ、専門教育の充実度が去年より高まった。

筑波大学日本語・日本文化学類と当大学文学部の間で締結された学生・学術交流協定にのっとり、本年度も筑波大学から学生が来訪し日本語教育実習を行い、当大学からは4名の学生が短期留学生として渡日した。日本語・日本文化研修生や国際交流基金の「成績優秀者研修」として留学したり、また自費で渡日し旅行をしたりキャンプの手伝いをしたりするなど、活動的な学生の行動が見られる。

6. 課外活動

スロベニアでは「日本」に触れる機会が少ないため、今年は学外へ出ていき、積極的に「日本」に触れさせるという企画を試みた。

①ウィーン研修

中世史専門の客員講師が来訪中、ウィーンを訪れ、歴史博物館で開催されていた「侍と武士展」を見学、またウィーン大学日本研究科を訪問した。

②「日本陶器展」見学

スロベンスカ・ピストリツァ（スロベニア）で開催されていた国際交流基金巡回展覧会「日本陶器展」を見学。

③浮世絵見学

スロベニア学士院に保存されている浮世絵260点のうち数十点を見学。

④舞踏セミナー

国際交流基金巡回講演の一環として行われた演劇集団「とりふね舞踏舎」の公演を学科が援助、学生はワークショップに参加する。

7. 問題点

本年度は日本文学史・戦後社会史などいろいろな講義がなされたが、いずれも集中授業として行われたため、学生・講師の負担が大きかった。通年でリュブリャナに在住し、講義を行う講師の雇用が望まれる。来年度は本格的に卒業論文を執筆する学生が出てくるため、その学生指導の点からも急務の課題である。

本年度は一年生が100人を越えるという大クラスになったが、来年度は簡単な入学試験を行い、新入生を30～40人に限定する予定である。また、現在進行中の辞書・教材の作成も、来年度開始時には出版の見込みである。